

# 地域づくり人材育成セミナー 実施報告書

毎年開催している当セミナー、今年度は二つのテーマでそれぞれ県内2会場において実施いたしました。このセミナーは、生涯学習・社会教育関係職員、地域づくりリーダーとしての活躍が期待される県民対象に開催されるもので、効果的な生涯学習講座運営や企画について様々な講師や事例提供者をお招きしています。

令和5年度は、「防災・減災」と「やさしく伝える日本語」をテーマとし、「防災・減災」編では避難所運営に役立つ炊き出し実習と、避難所運営ゲームを行いました。「やさしく伝える日本語」編では、いろいろな立場や背景を持つ県民に、どうやったらシンプルに伝えられるのか、やさしい日本語の考え方と、言葉の使い方や手法を学びました。

## 《防災・減災》

【村山会場】日時：令和5年9月1日（金）11:00～15:00

場所：東根市西部防災センター（東根市蟹沢1156-4）

【庄内会場】日時：令和5年9月8日（金）11:00～15:00

場所：余目第4まちづくりセンター（東田川郡庄内町南野十八軒21-1）

## 《やさしく伝える日本語》

【最上会場】日時：令和5年9月19日（火）13:00～16:00

場所：わくわく新庄（新庄市下金沢町15-11）

【置賜会場】日時：令和5年9月20日（水）13:00～16:00

場所：シェルターなんようホール（南陽市三間通430-2）

## 対象者

- ・生涯学習・社会教育関係職員（公民館・コミセン職員、生涯学習・社会教育施設職員含む）
- ・地域づくりリーダーとしての活躍が期待される県民  
（NPOやボランティア団体で活動されている方、青年会議所職員や地域福祉関係者、学生等で地域づくりに関わっている方など）

# 《防災・減災》

9/1（村山会場：東根市西部防災センター） 9/8（庄内会場：余目第4まちづくりセンター）

時間	◇受付 10:40～10:55      ◇事務連絡 10:55～11:00
11:00～12:30	◆ミニ講義：当セミナーの狙い・災害食の意義 講師：ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原 公彦氏 （9/1のみ実施。9/8は後半の講義に組み込み） ◆ワークショップ「災害時に役立つ炊き出しにチャレンジ！」 協力：高島町赤十字奉仕団 我妻 由美子さん（委員長）、後藤 美恵子さん、近野 こみちさん、須藤 のり子さん、 武田 幾子さん、武田 浩司さん 東根市蟹沢赤十字奉仕団 芦野 みや子さん（委員長） 【メニュー】しめじの炊き込みご飯、具沢山の洋風スープ、鶏肉の唐揚げ風、蒸しパン その他（赤飯、ぼだもち、きゅうりの豚肉巻など実践例）
12:30～13:00	休憩
13:00～14:50	◆講義&ワークショップ「避難所運営ゲーム（HUG）体験」 講師：千川原 公彦氏（ウェザーハート災害福祉事務所 代表）
14:50～15:00	諸連絡・アンケート記入

## 参加人数

申込者数：22名（村山：11名、庄内：11名）  
出席者数：21名（村山：10名、庄内：11名）

## 講座の様子



## 炊き出し実習

災害などで停電があったときにすぐに使いたい生の食材や缶詰など活かして、耐熱ポリエチレン袋で温かい食事を調理する方法の解説を受けたのち、ご飯、汁物、おかず、お菓子を作っていました。実習の過程では、茹で上がりの時間を合わせるために時間差で袋に詰めてお湯に投入すること、また、茹で上がった後、ご飯類は穴をあけて蒸気を逃がしておくことがおいしくするためのポイントであることや、川の水でも茹でるときの水に使えるなど、災害の現場で必ず役に立つ秘訣をしっかりと学びました。

### ○参加者の感想

- ・炊き出しの実習を初めてやらせていただき大変参考になりました。また、大変美味しかった。ポリ袋でごはん、汁物、お菓子が出来ることを知り有意義な研修でした。
- ・アイラップでごはんやおかずを作れることに驚いた。お米は炊き忘れた時にも役立つと思った。
- ・赤十字奉仕団の方々が慣れていて、スムーズな指導でとても取り組みやすかった。
- ・簡単でおいしい防災食は現場では人々の救いになると感じた
- ・自分で作ることで、手順や時間等をしっかりと学ぶことができました。袋の結び方やちょっとしたアドバイスは、今までの経験からだと思います。今回だけでなく今後も作ってみたい。
- ・避難食は不味いというアンコンシャスバイアスが取り除かれた。

## HUG（避難所運営ゲーム）体験

今年は避難所運営ゲーム（HUGを千川原氏がアレンジしたオリジナル版）を実施しました。

### ○参加者の感想

- ・一度やってみるだけで想像力がふくらむと感じたので、自分の住んでいる地域の避難所でHUGをやるとことで、色々なことが想定できるのではと期待している。
- ・女性防災クラブ全員を参加させたい！HUGゲームが大変よかった。
- ・避難者の特性に応じて、短時間で判断して配置するのは難しいと感じた。自主防災会のリーダーで避難所の運営委員になる方々にも体験してほしいと思う。
- ・いろいろな意見が出され、あっという間の90分だった。事前に自分に地区の避難所をイメージし、準備をすすめておくことが大切だと感じた。

# 《やさしく伝える日本語》

9/19（最上会場：わくわく新庄）9/20（置賜会場：シェルターなんよう）実施

時間	◇受付 12:40～12:55	◇事務連絡 12:55～13:00
13:00～14:20	◆講義&演習 「伝えたいことを簡潔に伝えるには～やさしく伝える日本語を考える」 聖心女子大学 現代教養学部 日本語日本文学科 教授 岩田 一成氏	
14:20～14:30		
14:30～15:50		
15:50～16:00	諸連絡・アンケート記入	

## 参加人数

申込者数：17名（最上：7名、置賜：10名）

出席者数：16名（最上：7名、置賜：9名）

## 当日の様子



## 講義の内容

講師の岩田先生は、大学で教鞭を取る傍ら、「やさしい日本語」を提唱し、日本各地において精力的に職員研修をされています。今回、山形県生涯学習センターでは、社会教育や地域づくりに関わる職員向けに研修を行っていただきました。山形での滞在中に収集された看板事例と、生涯学習センターの建物遊学館での掲示物を教材としていただくなど、情報量の多い、目からうろこが落ちるセミナーでした。

講義はいくつかの言葉（名詞）をわかりやすく説明するワークからはじまり、「やさしい日本語」の歴史、そして国内での外国人対応にもっとも効果的な言語は日本語であるとの調査結果から、外国語でのコミュニケーションより、理解しやすいように構造変換した日本語のほうが効果的であることを学びました。

素材を使つての実習では、遊学館内の掲示物などを例にとり、問題点などを話し合い、その後「伝わりやすい・理解しやすい」掲示物にするにはどう手を入れたらよいかを考えました。書いた文章の難解度を測るウェブで利用できるチェックツールを用いれば、誰にでもやさしい日本語を駆使できるようになるはずでした。

また、日本人および日本語の思考モデルを例にとりストレートに表現することや、窓口対応時など、口頭での表現のコツについて触れ、複雑な敬語をシンプルにする練習にチャレンジ。まとめとして、コミュニケーションにおいては、このような技術とともに「コミュニケーションにおける態度」も重要であるとの調査結果のご紹介で講義は終了となりました。

## 参加者の感想

- ・職場に戻ってすぐ使えるような内容。お知らせ、おたよりの修正など勉強になった。
- ・今後必ず役立つ研修内容だった。参加してよかったです。講師の話術に引き込まれた。構成も、興味がとぎれず3時間なのにあつという間だった。言葉に無頓着だったと反省もしたので、これからは大切に（言葉を）扱っていきたい。そのことがやさしい日本語につながると感じた。
- ・近い将来必要になってくる日本語の話だった。自分の職場の貼り紙も思い当たる点があった。
- ・話し言葉のコツ編は、即実践で使えそうと思ひ参考になった。こちらの態度も大きく影響することもわかった。長年 NPO 中間支援組織を運営しているが、今後の啓発や事業などにも役立てられそうだ。
- ・たくさん技術的なアドバイスなどを聞くことができてよかったが、一番は「技術より態度」、これを知ることが出来たのが有意義だった。
- ・大変ためになる研修だった。相手に焦りを見せるような態度はNGだということに共感できた。声のボリュームを一定にするなどの意識づけは必要と感じた。